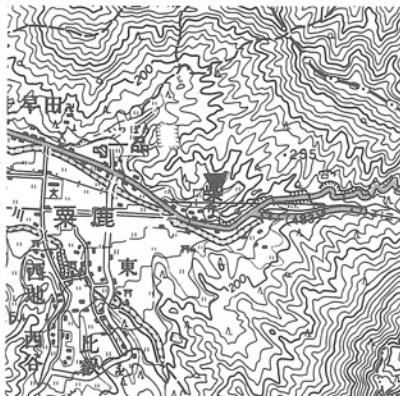


兵庫・柴^{しば}遺跡



(但馬竹田)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8世紀～10世紀

- 1 所在地 兵庫県朝来郡山東町柴字方谷
 - 2 調査期間 2000年(平12)11月～2001年2月
 - 3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
 - 4 調査担当者 西口圭介・鈴木敬一・海邊博史
 - 5 遺跡の種類 官衙関連遺跡
 - 6 遺跡の年代 8世紀～10世紀
 - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 柴遺跡は丹波国と但馬国の境である遠坂峠の但馬国側の麓にある。遺跡は南面する山裾の狭い谷中であり、谷が埋没し安定してゆくながで形成されている。今回の調査は北近畿豊岡自動車道の建設に伴うものである。調査地点の南側には近世の山陰道(現国道四二七号)が走っており、古代から中世の山陰道についても近隣に推定できる地点である。

8 木簡の収集・内容

- (1) 「く驛子委文マ豊足十束代稻穀一尺」 316×32×5.5 033
(2) 以今月三日癸卯日送□〔物カ〕 (242)×(29)×45 081

10世紀にかけての遺構・遺物を検出した。遺構は比較的地盤が安定している山裾よりに集中しており、遺物は主にその前面の湿地堆積土中に投棄もしくは流入した状態で出土している。

遺構・遺物包含層は上下二層に大別され、上層は10世紀、下層は主として8世紀から9世紀前半の時期が与えられる。

上層では、整地層と水田畦畔の芯材と考えられる木組みが検出されているが建物などは検出されなかつた。

下層では、掘立柱建物八棟・井戸一基が検出されている。建物はいずれも一間×三間程度の小規模のものである。

遺物は今回報告する木簡のほか、馬形が主体となる木製祭祀具・神功開宝・綠釉陶器・墨書き器・金属器を模倣したとされる稜椀・多量の転用硯など官衙的色彩をもつ遺物が出土している。遺物は8世紀初頭～8世紀前半、及び9世紀後半の時期のものを多く少量含むが、8世紀後半から9世紀前半と10世紀のものが大半を占める。今回報告する木簡のうち、(1)は掘立柱建物一の南東端の柱抜取穴から出土した。(2)(3)は下層の遺物包含層、呪符木簡三点(4)(5)(6)は上層の遺物包含層より出土している。



文字資料では初めての例である。また、本木簡から所在が考えられる駅家は山陰道粟鹿駅家である。粟鹿駅家は丹波国側から入る但馬国最初の駅家である。粟鹿駅家の所在地については、従来、柴を含め周辺において数説あつたが、本木簡の出土によつて今回の調査地點の至近に駅館が存在した可能性が高くなつた。

(2)は干支と田付を併記している。文書木簡の断片であろう。

(3)は「論説」学而篇を表裏両面に記した木簡である。表面には冒頭の一節が記されている。裏面には表面上に続く部分が記され、文字

の重複や繰返しがなく、習書とは考え難い。複数の木簡に、表・裏・表・裏の順に『論語』学而篇が記されていたものと考えられる。現状では木簡は上下端を破損しているが、両面の文字の配列から、片面に二〇〜二一文字が記され、文字部分だけで四〇cm弱、全長はそれ以上の長さがあつたことがわかる。

(4) (5) (6) はいずれも呪符木簡である。(4)は羽子板状の形状をもつ。
(5) (6) はいずれも上端に切り込みをもつものである。

なお木簡の翻訳・内容の検討にあたつては国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9

兵庫県教育委員会『ひょう』の遺跡 四〇(1)1001年 同『平成一一年度年報』(1)1001年

(西口圭介)

概要		平城京跡(在京)七条一坊十五坪	秋篠・山陵遺跡	薬師寺旧境
内藤原京跡	右京六条四坊西坪	大藤原京跡	左京北五条三坊南西坪	大藤原京跡
飛鳥島跡	飛鳥池東方遺跡	飛鳥東坪境内遺跡	川原寺跡	吉備池廃寺
長岡宮跡	平安京跡左京三条三坊十五町	平安京跡左京五町	平安京跡左京五町	七条二坊八町及び本匂寺
鳥羽遺跡	鳥羽離宮跡	大敷遺跡	興戸	宮ノ前遺跡
武者ヶ谷遺跡	河守遺跡	難波宮跡	大坂城下町跡	長保寺遺跡
溝や遺跡	玉楠遺跡	釣坂遺跡	加都遺跡	農田寺跡
岩井枯木遺跡	宮内黒田遺跡	姫路駅周辺第四地点遺跡	古跡	遺跡
網干遺跡	六大A遺跡	楠田地区内遺跡群與ノ垣内地區	内垣外遺跡	浅草寺遺跡
宇津宮辻子幕府跡	汐留遺跡	白江御外堀跡	白鷗遺跡	上千葉遺跡
詰・御堀端通・町屋跡	法光寺跡	池之端七軒町遺跡	柳町遺跡	宮町遺跡
上浜遺跡	小谷城跡	(云知善院跡)	後田(日月記)	上浜遺跡
市川橋遺跡	柳之御所遺跡	志羅山遺跡	遺跡	屋代遺跡群(北陸新幹線関係)
崎遺跡	福井城跡(1)	後田(日月記)	洲	柳田遺跡
中保B遺跡	福井城跡(2)	神野遺跡	堅田B遺跡	砂山中遺跡
木津遺跡	砂山中下遺跡	下ノ西遺跡	広坂遺跡	下町・坊城遺跡
本杉遺跡	砂山中下遺跡	下町・坊城遺跡	下町・坊城遺跡	熊山田散布地
崎遺跡	三田谷I遺跡	地點	船戸	岡山城二の丸(中国電力変
電所)	遣構新道(清輝小)遺跡	百間川米田遺跡	百間川米田遺跡	電所)
日市遺跡	下上戸遺跡	觀音寺遺跡	平田七反地遺跡	元岡遺跡群
元岡遺跡群	長登銅山跡			
一九七五年以前出土の木簡(一一二号)	東淺香山遺跡(一〇号)	伊興遺跡(一九号)	伊興遺跡(一九号)	長岡京跡(一八号)
平城京跡左京二条一坊十坪	東淺香山遺跡(一〇号)	伊興遺跡(一九号)	伊興遺跡(一九号)	長岡京跡(一八号)
文の訂正と追加(一二二号)	シンドジウム「長屋王家木簡をめぐつて」の記録	シンドジウム「長屋王家木簡をめぐつて」の記録	シンドジウム「長屋王家木簡をめぐつて」の記録	シンドジウム「長屋王家木簡をめぐつて」の記録
削崩からみた長屋王家木簡:渡辺宏、長屋王家の米支給関係木簡	:勝麻生、長屋王家の経済基盤と荷札木簡:楠木謙周、討論のま	:勝麻生、長屋王家の経済基盤と荷札木簡:楠木謙周、討論のま	:勝麻生、長屋王家の経済基盤と荷札木簡:楠木謙周、討論のま	とめ:東野治之
木簡の撮影	木簡の撮影	木簡の撮影	木簡の撮影	木簡の撮影
書評	今泉隆雄著「古代木簡の研究」	書評	今泉隆雄著「古代木簡の研究」	書評

卷頭言—WEB版本簡データベースの公開に思う
木簡研究 第二二号

石上英一